

【報告】

## 「信愛ひらく 食育・保育教材」の開発

山下 浩子・内野 香・山村 涼子  
眞部 眞紀子・眞谷 智美・高松 幸子

### The Development of "Shin-ai Hiraku Dietary Education / Early Childhood Education Teaching Materials"

YAMASHITA Hiroko, UCHINO Kaori,  
YAMAMURA Ryoko , MANABE Makiko,  
MAMIYA Tomomi and TAKAMATSU Sachiko

In celebration of the 50th anniversary of the establishment of Kurume Shin-ai College, the College touted the "Shin-ai Hiraku Project 2018" and undertook various initiatives.

As a project to promote educational reform during the 2019 school year, dietary education/early childhood education teaching materials were jointly developed by the food project of the Department of Food Design and the "Sculpture Enjoyment Study Group", the child project of the Department of Early Childhood Education of the College. The purpose was to form a joint team of students from both projects and allow the students to plan and conduct dietary education classes for young children through active learning methods based on the content of study of the fields of nutrition and early childhood education. The topics of dietary education class were "Discussion on Food Card Selection and Nutrition" and "Learning about the Kurume Vegetable 'Kariburo' (Romanesco broccoli)". Students proposed and created the content of the classes as well as the teaching materials, and implemented dietary education classes for the upper class of the nursery school in our facility.

The picture book "Kariburo-Kun" was developed as a result of learning through this project.

Key words : Dietary education teaching material, early childhood education teaching material, educational reform promotion project, active learning

キーワード : 食育教材, 保育教材, 教育改革推進事業, アクティブ・ラーニング

## はじめに

久留米信愛短期大学は、開学 50 周年を機に「信愛ひらくプロジェクト 2018」を掲げ、“ひらく”をテーマに各事業に取り組んでいる。

本事業は 2019 年度教育改革推進事業として、本学フードデザイン学科フードプロジェクトと幼児教育学科チャイルドプロジェクト「造形の楽しみ研究会」が共同で、食育・保育教材の開発に取り組んだ。

本報は、本事業における学生の取り組みと、学習成果物として、絵本『カリブろくん』の開発に至った経緯を報告する。

## I 目的

目的は、両学科プロジェクトの学生が合同でチーム編成し、栄養及び保育分野の学習内容を基に、幼児を対象とした食育授業をアクティブ・ラーニングの手法で計画・実施することである。

また、授業で用いる媒体は食育教材として効果的な活用ができるよう考案・作成することとした。

## II 取り組みの内容

### 1. 対象学生

本学フードデザイン学科 2 年「フードプロジェクト」(以下、フードという)と幼児教育学科 2 年「チャイルドプロジェクト：造形の楽しみ研究会」(以下、造形研という)の学生である。

### 2. 実施期間

2019 年度前期 6 月～7 月に、フード学生が食育内容について各自 1 題研究し、造形研との合同授業にて発表を行った。後期 12 月は、1 月中旬の食育授業実施を目標に、フードと造形研学生合同の 2 チームを編成し、授業時間内外において、計画・媒体作成に取り組んだ。

食育授業は、本学院内の幼稚園年長児を対象

に実施した。

### 3. 食育授業のテーマ

食育授業のテーマは、「食べ物カード選びと栄養の話」と「久留米産農産物『カリブロ』を知る」である。

### 4. 食育授業の計画・実施

#### (1) 食べ物カード選びと栄養の話

(チーム構成: フード 8 名、造形研 4 名)

#### 1) 食べ物カード

提示された料理に使われている食材を考え、シートに並べられた「食べ物カード」を選ぶという、体験型の食育授業を計画した。

①提示する料理は、子ども達が料理の名前がわかる、食べたことがあることを想定して、「カレーライス」「オムライス」「サンドイッチ」「スバゲッティナポリタン」「ハンバーグ」の 5 品を設定した。

②5 品の料理に使われる食材(調味料も含めて)を 20 種類選択した。「ごはん」「めん」「パン粉」「卵」「肉」「ハム」「ウインナー」「チーズ」「ツナ缶」「ピーマン」「にんじん」「グリーンピース」「たまねぎ」「レタス」「じゃがいも」「トマトケチャップ」「マヨネーズ」「カレールウ」「しお」「こしょう」である。

③カードのサイズは 21×14.8cm とし、白ボール紙に下絵を描き、ポスカ(水性顔料インク)で彩色し作成した。

#### 2) 栄養の話

①作成した「食べ物カード」(調味料除く)は三色食品群に分け、カードの裏に、赤・黄・緑色のシールをそれぞれ貼った。

②栄養素の 3 つの力(働き)を説明するポスターを模造紙に作成した。

③「食べ物カード選び」の後、子ども達が選んだカードを裏返させ、貼られたシールの色ごとに、栄養素の力(働き)があることを話す。

### 3) 食育授業「食べ物カード選びと栄養の話」について

#### a 授業当日に至るまで

食べ物カード、栄養素の3つの力(働き)を説明するポスターともに時間が足りずぎりぎりまで作成するという状態だった。メンバー全員が揃う時間が取れず、メンバーの各担当割り、模擬授業などの練習と検討が全くできておらず、授業当日実施前の打ち合わせのみとなってしまった。

#### b 信愛幼稚園での食育授業当日について

4 グループに編成された約 40 名の園児を対象に、「食べ物カード選び」を実施した。進行役のメンバーが、子ども達にカード選びの方法を説明し、時間設定された合図で、各グループの子ども達全員がカード選びを行った。子ども達はとても熱心に、提示された料理の中にはどんな食材が入っているか、考えながら選んでいた。選んだカードについては、各グループ担当のメンバーが「この料理にはこの食材が入っているね」「みんなはこの食べ物をよく食べますか」など問いかけを行った。カード選びは、グループ間の競争ゲームではないことを説明していたが、どのグループもはじめから選んでいる仲間を応援する声が高がり、興味や関心が高かったようである。

食べ物カード選びを終えると、栄養の話担当のメンバーから、選んだカードの裏を見るように指示し、赤・黄・緑の何色のシールが貼られているか問いかけた。三色の色分けについて、栄養素の3つの力(働き)を話し、どの食べ物にも、みんなの体を元気にし、大きく成長するための力があること、好き嫌いなく何でも食べてほしいことを説明した。

### (2) カリブロについての人形劇と紙芝居 (チーム構成: フード 10 名、造形研 5 名)

#### 1) 人形劇

##### a 人形劇で使用するカリブロ人形の制作

①カリブロのキャラクターデザインを考

える。カリブロの実物を見てその特徴を捉え、造形研のメンバーそれぞれが出したアイデアのなかで、一番キャラクターとして相応しいものを選び人形を制作することとした。

#### ②人形制作

デザイン画を基にして人形制作に必要な材料(布類・発泡スチロール等)を揃え、造形研のメンバーが腕人形のスタイルで制作した。

#### b 人形劇の内容とストーリー

①人形劇は、カリブロの紙芝居を子ども達に興味を持って見てもらうための導入としての位置付けである。よって、カリブロ人形を「カリブロくん」と名付け、不思議な野菜という印象をあたえるような内容を考えた。

②ストーリーは、「誰が一番おいしいか」で喧嘩していたニンジン、タマネギ、トマトのところへ、カリブロくんが突然現れる。びっくりした3人が、カリブロくんに次々と質問をすると、「僕のこと知ってほしいから、みんなで僕の紙芝居みてね」と野菜達、子ども達に呼びかけるものである。

### 2) 紙芝居

#### a 紙芝居制作

①紙芝居の内容、ストーリー、原画については造形研のメンバーが行い、実際の紙芝居の箱制作、紙芝居用画用紙への描画はフードのメンバーが行った。

#### b 紙芝居の内容とストーリー

①紙芝居では、カリブロという野菜を多くの子ども達に知ってもらい、おいしく食べてもらうことを目的としているので、内容もそれに即したものとした。

②ストーリーは、カリブロくんの自己紹介という形で進み、味や形の特徴を説明した。また、遠い国イタリアからなぜ久留米に来てみんなに会おうと思ったかなど、子ども達にわかりやすく伝えるように考えた。

### ○紙芝居の箱制作、画用紙への描画

- ①紙芝居のサイズを54.5×39cmとし、紙芝居の箱を段ボール、厚紙等で制作した。
- ②原画を見ながら画用紙に下絵を描き、ボスカ（水性顔料インク）で彩色した。その際、明るく元気が出るような配色を心掛け、丁寧な仕上がりをめざした。
- ③彩色の後、画用紙の裏一枚ごとに番号、演者が読み上げる文章を書いた。

### 3) 食育授業「人形劇」「紙芝居」上演について

#### a 上演当日に至るまで

カリプロの人形劇、紙芝居どちらも時間が足りずぎりぎりまで制作するという状態だったので、上演にあたっての練習がほとんどできなかった。カリプロくん、野菜達の人形は造形研のメンバーが演じ、紙芝居はフードのメンバーが演じることになった。2、3回の練習で子ども達に喜んでもらえる演技ができるのか不安ではあったが、当日には力を合わせて精一杯演じる事を確認した。

#### b 信愛幼稚園での上演当日について

練習不足の不安はあったものの、約40名の園児を前に、予定通り人形劇から紙芝居そしてカリプロの試食へとスムーズに進んだ。子ども達の反応もよく、人形劇、紙芝居ともに楽しんでくれたようで、カリプロを知ってもらい、おいしく食べてもらうというこのプロジェクトの目的はかなり達成できたように思う。準備期間に余裕があったら、カリプロという珍しい野菜のことを、人形劇、紙芝居の楽しい思い出とともに、もっとしっかりと記憶してもらえるような、アイデア工夫ができたのではないかとささか残念ではあった。

### (3) 「カリプロ」の提示と実食

両チームの食育授業の終わりに、実物の「カリプロ」を子ども達に提示し、実際に見て、触ってもらった。また、小房に分けてゆでた「カリプロ」を食べてもらった。

子ども達の反応は様々で、「見たことがある」「食べたことがある」という声もあったが、ほとんどの園児が初めて「見た」「触った」「食べた」経験をしたようである。

見た感想第一声は「わぁ」であった。見た目の大きさ、鮮やかな黄緑色、形の面白さではないかと推察する。触ってみると「ごっごっしている」「とがってる」と手に触れた感覚をそのまま発していた。食べてみると「おいしい」「少しにがい」との感想であった。

## Ⅲ 取り組みの成果

### 1. 2 学科プロジェクト共同の取り組み

本事業の目的は、両学科プロジェクトの学生が合同でチーム編成し、栄養及び保育分野の学習内容を基に、幼児を対象とした食育授業をアクティブ・ラーニングの手法で計画・実施することである。しかし、両プロジェクトの1年間の活動計画の中で、本事業の取り組みを学生主導のアクティブ・ラーニングの手法で実施することは、実際困難であった。筆者ら教員が授業計画・実施をPDCAサイクルに沿って進めることができず、学生の主体性を引き出すに至らなかった点が課題である。この点が、学生が取り組む上での目的・目標意識に欠ける部分に現れ、受講姿勢にも差があった。

実際に園児を対象に食育授業を行い、子ども達の反応を感じたことで、学生自身ももっと主体的に計画・準備を行うべきだったとの反省が挙がっていた。限られた時間に手探り状態の事業実施ではあったが、両学科の学生が共同で、互いの専門分野の学びを活かし、また共通の目標に向けて取り組んだ経験は、今後の栄養士、保育士の現場で活かされることを期待したい。

### 2. 絵本『カリプロくん』

食育授業で用いた媒体、カリプロについての「紙芝居」は、食育教材として効果的な活用ができるよう、絵本『カリプロくん』に製本した。

この絵本は、久留米市内の保育所、幼稚園、

認定こども園等保育施設で活用していただくため、久留米市を通して 100 冊贈呈することとした。贈呈式は、3 月 30 日に久留米市庁舎にて行われ、チームの学生 3 名が式に臨んだ。当日は、地元新聞社 3 社及びローカルテレビ局 1 社からの取材を受け、広報される予定である。また、すぐに市内の各施設に配布され、絵本を手にした子ども達の様子も「広報くるめ」に紹介される予定である。

## ま と め

本事業は 2019 年度教育改革推進事業として、本学フードデザイン学科フードプロジェクトと幼児教育学科チャイルドプロジェクト「造形の楽しみ研究会」が共同で、食育・保育教材の開発に取り組んだ。目的は、両プロジェクトの学生が合同でチーム編成し、栄養及び保育分野の学習内容を基に、幼児を対象とした食育授業をアクティブ・ラーニングの手法で計画・実施することとした。食育授業のテーマは、「食べ物カード選びと栄養の話」と「久留米産野菜『カリブロ』を知る」である。学生は各授業内容と教材を立案・作成し、本学院内の幼稚園年長児を対象に食育授業を実施した。

本事業における学習成果物として、絵本『カリブロくん』の開発に至った。

## 謝 辞

本事業にご協力をいただいた久留米信愛幼稚園（園長 Sr. 二田奈津子氏）の皆様にご心より御礼申し上げます。また久留米市副市長中島年隆様、久留米市農政部、子ども未来部関係者各位のご尽力に厚く御礼申し上げます。

(2020 年 3 月 31 日受稿)



写真：2019年度教育改革推進事業「信愛ひらく 食育・保育教材」の開発